

# ATI News

第 29 号

2020 年 9 月

## － 伊達理事長退任記念 －

|                |      |       |    |
|----------------|------|-------|----|
| 1. 記念号発行によせて   | 理事長  | 遠藤 守信 | 1頁 |
| 2. 理事長退任にあたって  | 前理事長 | 伊達 宗行 | 1頁 |
| 3. 伊達前理事長のご経歴  |      |       | 2頁 |
| 4. 伊達先生へのメッセージ |      |       | 3頁 |
| 5. 活動紹介        |      |       | 8頁 |



## < 記念号発行に寄せて >

---

理事長 遠藤 守信  
(信州大学 特別荣誉教授、特別特任教授)

伊達宗行先生は当研究所の理事長を17年にわたって務められ、大きな功績を残されました。財団活動の中で、先生は科学する面白さを常に示され、それは説得力に溢れるものでした。先生から多くの薫陶を受けた皆様方と、先生の労をねぎらい、あわせて先生が力を注がれた当財団のさらなる発展を期すとの願いから、ここに記念号を出すこととなりました。



さて、伊達先生の変わらぬ創造力には日頃から敬意を表しておりましたが、その根源は博学と旺盛な好奇心が関係しているとお見受けしていました。失礼ながら直接、そのあたりをお聞きした所、先生は『科学がここまで進歩すれば、新しい創造はそう容易ではない。組み合わせの妙を考えるといい』、と話されました。先生は多くの知識の引き出しをお持ちで、それらが複雑に連動しているようでした。これは、C. クリステンセン教授が著書“The Innovator’s DNA”の中で発見力の一つとした“関連付け思考”に通じるものなのでしょう。また先生は本財団の研究会や講演会によく参加され、そこでの質問は実に含蓄のあるものでした。研究者の日常は一層多忙になっていますが、時間を割いて幅広い学問を蓄積することの大切さを教えていただきました。当財団の研究会や講演会にはこういった空気が流れており、大切に継承したいと思います。皆様方にはぜひそこで伊達流の創造力や質問力を磨く機会にしていいただければ幸いです。

## < 理事長退任にあたって >

---

前理事長・顧問 伊達 宗行 (大阪大学名誉教授)

なんとも驚きの引退興行になりました。新型コロナウイルスの引き廻しに手も足も出ない日々が続いています。今も問題ですが、これがいつまで続くのか、それが大問題です。

手元にロシアの資料があったので紹介します。1919～1920年（正に100年前）スペイン風邪の流行で、カピッツァ（後のノーベル物理学賞受賞者）は父、妻、子息、子女を失ったとあります。悲惨なものです。しかし、この流行でどんな人が亡くなったのか、何故か聞いた事がありません。日本ではたいした事で無かったのでしょうか。



脱線しましたが、この度は理事長退任記念号を出して頂き恐縮しております。お手を煩わせた事務局の方々、記念号にご執筆下さった方々に厚く御礼申し上げます。

## < 伊達先生ご経歴 >

---

1929 年 11 月 1 日 ご生誕

### 【学歴】

1952 年 3 月 東北大学理学部物理学科卒業  
1952 年 4 月 東北大学大学院（旧制）特別研究生

### 【職歴】

1955 年 2 月 東北大学 科学計測研究所 助手  
1955 年 3 月 東北大学 金属材料研究所 助手  
1959 年 6 月 大阪大学 理学部 講師  
1962 年 5 月 同上 助教授  
1964 年 7 月 同上 教授  
1993 年 3 月 定年退職  
1993 年 4 月 日本原子力研究所 先端基礎研究センター長  
1999 年 3 月 同上 退職  
1999 年 4 月 同上 技術相談役  
2000 年 6 月 同上 評議役（職名改正）2005 年 9 月 30 日まで

### 【主な併任】

1960 年～1969 年 東京大学 物性研究所 教授  
1967 年～1991 年 大阪大学 低温センター長、隔年 2 年 計 4 回 8 年  
1971 年～1973 年 大阪大学 評議員  
1970 年～1977 年 大阪大学 理学部付属超強磁場実験施設長  
1991 年～1992 年 大阪大学 極限物質研究センター長  
1992 年～1993 年 大阪大学 理学部長  
1978 年～1997 年 日本学術会議会員  
1991 年～1995 年 日本物理学会 副会長（2 年） 会長（2 年）

### 【学位・資格】

1961 年 3 月 理学博士（旧制、大阪大学）  
1993 年 4 月 大阪大学 名誉教授

### 【主な受賞等】

1971 年 12 月 松永賞                      1980 年 12 月 仁科記念賞                      1991 年 6 月 藤原賞  
1991 年 11 月 紫綬褒章                      2000 年 11 月 勲二等瑞宝章

### 【新世代研究所ご経歴】

1986 年～1997 年 理事  
1986 年～1993 年 物性委員会委員長  
1997 年～2003 年 副理事長  
2003 年～2020 年 理事長  
第 30 回(2008 年)ATI 公開フォーラム講師（講演テーマ：「数」の日本史）

## ＜ 伊達先生へのメッセージ＞

### 副理事長 新庄 輝也(京都大学 名誉教授)

このたび理事長を退任された伊達宗行先生の ATI に対する長年のご貢献に感謝し、ご苦勞さまでしたと申し上げたい。先生との最初の会話は、60 年前の京都の国際磁気学会の際で、アルバイト学生だった私は講演前の先生に「外人にお名前をデートと読まれる心配はありませんか？」と話しかけた。先生は泰然として、「チェアマン（外人）も私がダテであることはよく知っているから大丈夫」と答えられたので、若くても国際人なのだと感心し、M1 の学生が無用の口出しをしてしまったと恐縮した記憶がある。その後私は京大で、広い意味では先生と同じ磁性物理の範疇の研究を続け、阪大の伊達グループの成果を仰ぎ見て過ごした。とりわけ超強磁場の発生と磁性の研究に関するご業績は世界を凌駕する金字塔といえた。



約 20 年前から ATI の仲間に入れていただき、しばしば伊達先生のご見識の広さに触れることができたのは幸いであった。ATI の事業の中で、研究会は特にユニークな活動であるが、これまではその構想から運営にいたるすべてが伊達先生のご指導に依存し、既に伝統が確立されている。したがって今後も先生のご助言が必要となる局面は少なくないと予想される。一方、停滞を防ぐためには個々のメンバーが前進する意欲を持ち続けることが肝要であろう。“バトンタッチでロスはしない”、日本のリレーチームの得意技である。



### 副理事長 森田 清三(大阪大学 名誉教授)

伊達先生と最初にお会いしたのは、1966 年に大阪大学の物理学科に入学した時で、若手教授だった先生は私たちのクラス担任でした。1975 年には理学博士取得のための審査の副査をして頂き、磁気共鳴の小さな構造の再現性を訊かれ、「雑音が弱いときは見えるのですが」と答えた思い出が有ります。また、2001 年から 2005 年の間は、日本原子力研究所・黎明研究専門部会の評価委員として部会長だった先生のお手伝いをさせて頂き、研究評価の面白さを教えて頂きました。伊達先生、長年お世話になり有難うございました。

### 評議員 小林 哲(セイコーインスツル(株) 代表取締役社長)

長年に渡り、新世代研究所の活動をリードいただき、心より御礼を申し上げます。

ナノテクノロジーの世界を通して、当財団の名称でもある新世代を担う人材の育成を図り、そして幅広い技術分野、更に人文社会などの多角的な視点での伊達先生のご指導には、私共 企業人も常に刺激を受けておりました。SDG s などの時代の要請として、社会的貢献を目指した活動が重要となる中、伊達先生から授かった思いを更に進めるように、当財団そして企業も活動して参りたいと存じます。ありがとうございました。



## < 財団関係者からのメッセージ >

理事・企画委員 大島 泰郎（共和加工（株）環境微生物学研究所 顧問、東京工業大学 名誉教授）

「白砂青松」

初めて伊達先生と親密にお話したのは、原研の研究費助成の審査委員を引き受けた時でした。原研内の委員会のあと、伊達先生と海辺を散歩した夕べは忘れられません。夏の日で東京から来た身には涼風と白砂青松は別世界。その折、伊達先生は「多数決でなく、これは……なら独断で」といわれた。それまで合議により意見をまとめて………と信じていた私には青天の霹靂、この助言が、後に「タンパク 3000」や「CREST たんぱく」の責任者を悔いなく勤められた原点でした。伊達先生は私の研究者人生の恩師の一人です。

バイオ単分子研究会にて  
(2014 年 7 月 伊豆)



評議員 徳本 洋志（(株) アールデック・(株) 三友製作所 技術顧問）

伊達先生には長年にわたる ATI の運営にお勤めいただきありがとうございました。公益財団法人化への移行、ナノサイエンスをキーワードとした研究支援、若手研究者の育成等を中心とし、社会貢献の方策を探索され、理事長としての大変なご尽力をされました。感謝の気持ちで一杯です。これからもご健康に留意され、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

評議員 新村 信雄（茨城大学 特命研究員）

伊達先生は 1993 年 4 月に旧原研（現：日本原子力研究開発機構）東海研先端基礎研究センター初代センター長として、私は中性子構造生物グループリーダーとして赴任しました。爾来、先生の科学に関する深淵な知識、人材登用等への目利き、先見性、指導力、科学政策への知悉、それらに根ざし組織・制度の確立を行う実行力を傍らで拝見しつつ研究を続けて参りました。

1999 年度から、ATI の研究会に中性子構造生物学関連研究を含めて頂きました。日本が世界に先駆けて開発発展させた基本技術を基盤にしている分野を応援したいという先生の気持ちに感謝いたします。

研究会では、一つの講演に 1～2 時間かけ、喧々諤々、腑に落ちるまで討議し、時間足らずの際は、気分一新、温泉に浸かりながら、はたまたナイトセッションでは科学のみならず政策談義等々行ってきましたが、先生はことある度にこれらの重要性を説いておられました。先生の薫陶を永きに渡り身近に受ける光栄に浴してきたことは感謝の一言に尽きます。今後ともご健康には十分お気をつけ頂き ATI を見守ってください。ありがとうございました。

**評議員 前川 禎通（理化学研究所 創発物性科学研究センター 特別顧問）**

私は、伊達先生が創設され初代センター長を勤められた、日本原子力研究開発機構・先端基礎研究センターの4代目のセンター長として色々ご指導をいただきました。伊達先生が築かれた日本の中心的研究開発機構での基礎研究のあり方、いわゆる「伊達イズム」は健在です。これはATIの「伊達イズム」と通じるものです。引き続きご指導をどうぞよろしくお願いいたします。

**評議員 松本 和彦（大阪大学 名誉教授/特任教授）**

長らくATI理事長をお勤めいただき大変ありがとうございました。  
バブルがはじけた後の大変厳しい財政状況の中を、様々なアイデアを出されて難局を乗り切って来られ、今日までATIを率いて来られたことに感謝いたします。伊達先生にお会いしますと、いつも青葉山の騎馬像の伊達政宗公のお顔と全く同じお顔だと感動いたします。私だけでなく、東北大学の齋藤先生も同意見です。激動の時を過ごされてこれからは悠々自適のお時間をお楽しみください。伊達先生に政宗の漢詩をお送りして感謝の意とさせていただきます。

馬上少年過ぐ  
世平らかにして白髪多し  
残軀天の赦す所  
樂しまずして是を如何にせん

**評議員 榎 敏明（東京工業大学 名誉教授）**

伊達先生とは学生時代に磁性体研究を行っていた関係で、学会、研究会等で大変お世話になりました。その後、私が磁性から炭素材料に分野を変えたこともありましたが、研究会でお会いする機会があり色々ご教示いただきました。ATIでは蔵王や野地温泉での研究会には毎回お会いし、大変お世話になりました。ご退任後も親しくお話しする機会が持てたらと思います。

**評議員 佐々木 裕次（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授）**

2009年から2期に渡って「バイオ単分子研究会」の委員長をさせていただいたご縁で、伊達先生とお付き合いさせていただきました。一番の思い出は、「委員会」恒例の宿泊形式の討論会です。深夜遅くまでの討論をした翌日に一番風呂に行くと、いつも伊達先生がすでに湯船につかっていました。視線が合うとすぐに、必ず「鋭い質問」を投げかけられ一番風呂の爽やかさが吹っ飛んでしまいました。この先生の好奇心が継続出来る素晴らしさ、難しさを日に日に私自身感じております。本当に長い間ありがとうございました。

**理事 川戸 佳（帝京大学薬学部 特任教授、東京大学 名誉教授）**

伊達先生とのお付き合いは、ATIが発足した最初から（財団法人になる前から）です。和田昭允先生が生命系担当で、小生は生体計測分科会を担当しており、伊達先生は磁性物理系担当でした。ATIは35年にわたる歴史を誇りますが、電子産業界の浮沈の荒波の影響も受けてきました。伊達先生は基礎科学の振興の旗を掲げてATIを引っ張ってこられました。これからも我々にアドバイスをよろしく。



### 理事 宮野 健次郎（物質・材料研究機構 フェロー）

「長い間、ATI の舵取りありがとうございました。特に、理事長になられた後の社会・経済的な変化、科学もナノサイエンスから量子科学そのものを対象にする時代への変化の大波を、ATI がうまく乗り切ることができたことは卓抜なご指導の賜物です。ご退任後もお知恵をよろしくお願い申し上げます。

### 理事 齋藤 理一郎（東北大学大学院 理学研究科 教授）

伊達先生からナノカーボン研究会に対し、いつも暖かいお言葉を賜り、それが大きな発展の力になりました。ナノカーボン研究会では、毎年蔵王での研究会にご参加くださり、いつも端的で明快な質問をいただきました。また、温泉、テニスや湖の周りの散歩などを通じていろいろ貴重なお話も賜りました。特に 2013 年 8 月の、伊達先生、上村洸先生（伊達先生と同年、東京大学名誉教授）、高瀬さん、齋藤のテニスの緊迫したダブルスの試合が今でも鮮明に覚えています。また 2016 年 2 月の Mildred S. Dresselhaus 先生の東北大学の名誉教授授与式では、伊達先生に来賓の式辞・乾杯のご発声を賜りましたことも式を運営した私の人生においても輝かしいときでございました。来年の蔵王研究会にはぜひご参加いただき、お元気でご活躍されることを心から祈念いたします。長い間 ATI のご発展にご尽力されてきましたことに、こころより感謝申し上げます。



### 界面ナノ科学研究会委員長 柴田 直哉（東京大学大学院 工学研究科 教授）

背中中で語る、背中から学ぶ、という言葉がありますが、伊達先生からご薫陶を賜りましたことは私にとって研究者として生きる大切な糧となっております。先生にお会いしてから、未踏峰に挑むようなそれでいて自分にとって切実な一筋の研究を志したいと強く願うようになりました。ATI という研究者同士が分野を越えてお互いを高め合う場を長年継続してこられたその絶えぬ情熱と御尽力に心より敬仰申し上げます。

### スピントロニクス研究会委員長 齊藤 英治（東京大学大学院 工学研究科 教授）

スピントロニクス業界に入って間もない頃、前川先生に伊達先生をご紹介頂いた時のことをよく覚えております。伝説の大先生にお目にかかり緊張しておりましたが、優しく励ましていただき大変感動致しました。長年にわたり私どもをお導き頂き、深く感謝しております。今後も研究会や仙台の街中でお目にかかれることを楽しみにしております。

### バイオ単分子研究会委員長 西野 吉則（北海道大学 電子科学研究所 教授）

私が阪大大学院理物の学生だった時以来の、20 年程ぶりでの ATI での再会を嬉しく思っております。私がバイオ単分子研究会の委員長を拝命した 2015 年頃からは、伊達先生の研究会へのご参加も難しくなり、残念に思っております。ATI の同窓会でまたお目に掛かることを楽しみにしております。長年にわたり本当にお疲れ様でした。

### ナノメカニクス研究会委員長 都甲 潔（九州大学高等研究院 五感応用デバイス研究開発センター 特別主幹教授/特任教授）

伊達先生の長い間の ATI への貢献に厚くお礼申し上げます。ナノメカニクス研究会が発足してまだ2年にしかありませんが、毎回ご出席頂き、貴重なコメントを賜り、交流会でもやさしくお声をかけて頂きありがとうございました。これからもお元気で、毎日をお過ごしください。

### 元界面ナノ研究会委員長 一杉 太郎（東京工業大学 物質理工学院 教授）

伊達先生の著作を読むと、伊達先生が幅広い知識と興味をお持ちであることがよく分かります。その広い視野が、俯瞰的なものの見方と包容力を生み出すのだと納得した次第です。先生には多くの機会をいただきました。心より御礼申し上げます。

### 水和ナノ構造研究会副委員長 田中 伊知朗（茨城大学大学院理工学研究科 教授）

原研基礎センターにおける原子炉から J-PARC への中性子生物用装置開発の変化の時期に、ATI 研究会に参加させてもらい、水和ナノ構造研究会委員長時代も含め、この分野を盛り上げる努力を微力ながらも行ってきました。学生時代からのこのような研究活動全般に対し、常に暖かくご支援いただいた伊達先生に深く感謝いたします。

### 元事務局員・理事長秘書 高瀬 正江

2003年に理事長の交代があり、ATIが変わる期待と緊張から、伊達理事長に初めてコーヒーをお出しする際にカップと受け皿がカチカチ鳴ったのを覚えています。ATIが幾多の荒波を乗り越えられたのも伊達先生の手腕の見事さですが、先生はまたノーベル賞候補への推薦を自分はその器量にあらずと丁重にお断りするほどの謙虚な方でもあります。

15年に渡り、理事長の秘書として伊達先生と親しく交流させて頂いたのは大変な光栄です。心から感謝申し上げます。



### 事務局長 青木 郁

4年前に事務局に来て伊達先生の新聞記事を読みました。「科学者がサラリーマン化してはだめだ」、「細かいものばかりやるようになって、こんなことじゃ科学はだめになる」、「科学は芸術と同じで作るものではなく出てくるもの」、「見込みのある研究者を集めて一杯飲ませる会」、「専門領域を越えた有能な人たちが自由な議論をし、共同研究をし、新しい発想で良い研究がでてくる」。全くその通りだと思います。皆さんも同じ思いでしょうが、国の仕組み、組織のルールという現実の制約があります。伊達先生はATIでこの考えを強い信念で実践されました。総合科学技術・イノベーション会議などで対策を始めていますが、大きな組織では現場に浸透しにくいようです。小回りが効くATIでは今後も続けて行きましょう。

## < 活動紹介 >

バイオナノ研究会（2004年2月 四万温泉）  
活発な研究会。ホテルにも駅にも干し柿が。



生体ナノマシン研究会を終えて、日  
光見学でリラックス。（2007年3月）



ナノ磁性体研究会（2005年1月 蔵王）  
研究会の委員長は新庄先生。会が終わりパチリ。これから皆さんスキーです。



第22回公開フォーラム（2004年4月）伊達理事長挨拶と講演者の高松宮妃殿下。  
高松宮妃殿下のSPも含め物々しい中での素晴らしい講演。無事に終了、ホッとしました。



ナノカーボン研究会 (2009 年 8 月 蔵王)



スピントロニクス研究会 (2010 年 2 月)  
ノーベル物理学賞受賞者 Albert Fert 博士  
を迎えて大盛り上がり。



第 7 回合同研究会 (2012 年 11 月 東大  
伊藤国際学術センター) 受付は室外に置  
くほどの盛況。寒い日でしたが、室内は  
議論伯仲。



第 19 回研究報告会 (2012 年 7 月)



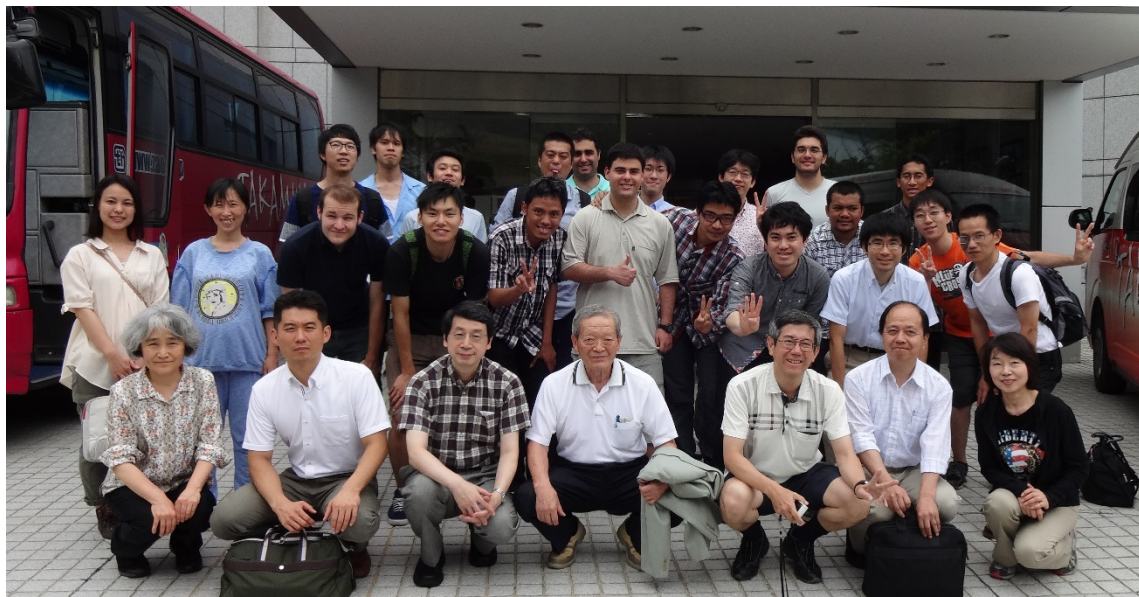
第 8 回合同研究会 (2013 年 11 月)



2014 年バイオ単分子研究会  
(2014 年 7 月 伊豆)



ナノカーボン研究会 (2014 年 7 月 蔵王)  
珍しく、蔵王のお釜がきれいに見えラッキーでした。熱のこもった議論の後は格別。



第 9 回合同研究会 (2014 年 11 月)  
東北大学東京分室



2016CNT25 (2016 年 11 月)  
東京イイノホール



ATI 創立 30 周年記念集合写真 (2016 年 12 月)  
参加者の気持ちは創立 50 周年に向けて！！



ATI 創立 30 周年にて和田先生と  
(2016 年 12 月)



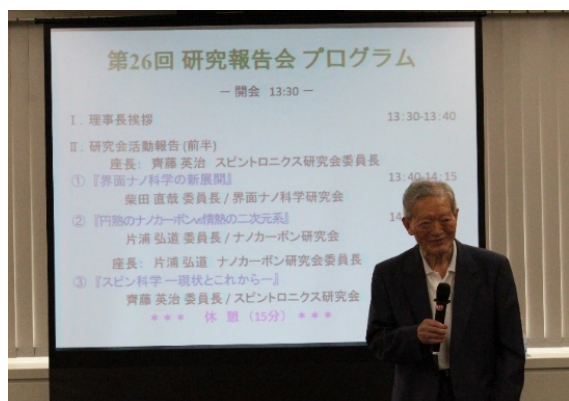
第 24 回研究報告会懇親会で事務局  
佐藤さんと (2017 年 7 月)



水和ナノ構造研究会を終えて、紅葉の山形天元台にて(2017 年 10 月)



第 26 回研究報告会 (2019 年 6 月)



2019 年奨励賞授与式での記念撮影  
(2019 年 5 月)



ナノメカニクス研究会にて (2019 年 11 月)

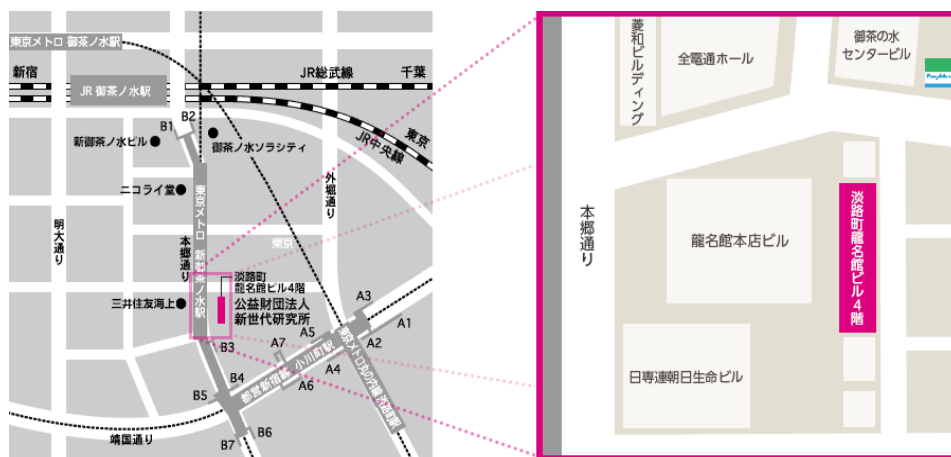


スピントロニクス研究会にて(2019 年 12 月)



ナノカーボン研究会にて(2020 年 2 月 野地  
温泉)この後、新型コロナウイルスで研究会は  
中止に。いつ宿泊研究会が再開できるか。





J R 御茶ノ水駅（聖橋口）徒歩 5 分  
 地下鉄 千代田線 新御茶ノ水駅 徒歩 2 分  
 地下鉄 丸の内線 淡路町駅 徒歩 3 分  
 地下鉄 新宿線 小川町駅 徒歩 3 分



公益財団法人 **新世代研究所**  
FOUNDATION ADVANCED TECHNOLOGY INSTITUTE

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町 1-23-5 淡路町龍名館ビル 4 階

Tel : 03-3255-5922、Fax : 03-3255-5926

ホームページ : <http://www.ati.or.jp/>

E:mail : [info@ati.or.jp](mailto:info@ati.or.jp)

2020 年 9 月